

安全への提言

|||||



創る安全の取組

いの うえ よし お
井 上 義 夫†

筆者が所属する企業グループの事業は、石油化学、化学品、電子・情報、無機、アルミニウム他のセグメントから構成され、事業に応じて製造設備、製品分野也多岐に亘る。

また、(社)日本化学工業協会、(社)日本アルミニウム協会などの団体に加盟しており、(社)日本化学工業協会の中の任意団体である日本レスポンシブル・ケア協議会に参加し、企業グループとしてレスポンシブル・ケア*に取り組んでいる。

1995年に「レスポンシブル・ケアに関する行動指針」を策定してレスポンシブル・ケアの取組を開始し、2010年1月現在では、自社の全事業場及びグループ企業15社を含むグループの活動として推進している。

レスポンシブル・ケアは、マネジメントシステム、労働安全衛生、保安防災(設備安全)、環境保全、化学品・製品安全、物流安全、社会との対話などの対象分野から成り、それぞれについて全社目標を掲げ、行動計画を立て、自社及びグループ事業場に展開し、Plan-Do-Check-Actionのサイクルを回しながら推進する活動である。

上記のように、「安全」の対象範囲は種々あり、事業分野によりリスク要因も多々あるが、本稿では、主に設備安全、労働安全及び環境保全に関わる当社グループの取組の一部について述べる。

社内規程で設備事故・労働災害・環境異常など(以下、「事故・災害等」と呼ぶ)の定義及び事業場から本社への報告基準を定め、従来から、自社及びグループ事業場で発生した事故・災害等の発生状況・原因・対策等を確認・精査している。

事故・災害等の内容により、他の事業場への周知に留める場合と他の事業場へ横展開を要請し報告を求める場合がある。このような事故・災害発生時の発生事

業場での再発防止と横展開には一定の効果があるが、他の事業場への横展開には結果として事業場により濃淡が見られる。

数年の期間について自社及びグループ事業場で発生した事故・災害等の状況や原因(背景的要因を含む)を解析すると、発生した事業場で再発防止は出来ているものの、事業場間で見れば再発している例が殆どであると判断された。これらの事故・災害等の本質的な原因とそれを踏まえた対策を全社の教訓として分類・体系化し、事故・災害等の未然防止を図るために予め確認・是正すべき項目を、「創る安全チェックリスト」にまとめた。それらのチェックリストを当社グループとして活用する「創る安全の取組」を社内決定し、設備事故防止については2007年から、労働災害防止及び環境トラブル防止については2008年から取組を開始し、展開している。

チェックリストに基づき設備・作業を点検し、未然防止策を立案する過程や設備的対策の優先順位付けと予算措置・停止工事期間の確保など、相応の人・時間・金を要するが、事業場が計画的に取り組み、且つ本社が事業場監査等の機会に取組状況を確認、支援・指導する過程を経て、ここ2,3年で事故・災害等の件数に一定の成果を出しつつある。

現在は、社内外の事例を参考にチェックリストを毎年見直し、事業場に最新版を周知し、この取組の定着を進めつつ、さらにもう一段上の活動を目指したいと考えている。

最後に、本稿で述べた取組が読者のひとつの参考になれば幸い考える。

† 昭和電工(株)生産技術本部 環境安全室：〒105-8518 東京都港区芝大門1-13-9

* レスポンシブル・ケアとは、化学物質を扱う事業者が、化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至る全ライフサイクルにわたって「環境・安全・健康」を確保し、その改善を図っていく自主管理活動である。